大分市立
野津原小学校
学校だより

のつはる

主体的に学び 行動できる児童の育成

第13号
令和8年10月8日
校長 水田 匡彦

■大切な姿勢

2学期も継続して、『すいみんふり返りカード』に取り組んでいます。面倒だなと思う人がいるかもしれませんが、自分の実績を記録することは気づきに繋がります。その気づきから、考えて行動することができれば、人は大きく成長します。この取組を、考えて行動する練習のひとつと捉えていただければと思います。さて、野津原小学校の睡眠時間は、9時間以上が半数以上、8．5時間以上が85％です。悪くない状況ですが、子どもたちから疲れたという言葉を耳にします。原因のひとつは、姿勢だと思います。教室で子どもたちを見ていると、背筋が伸びていない子ども、教科書やノートと目の距離が近い子どもが多くいます。ご家庭では如何でしょうか。

姿勢を正すことの利点は、①深呼吸により脳に酸素がたくさん届き、勉強や運動の集中力が高まる、②体のゆがみ等が生じないため、疲れにくくなる、③気持ちが前向きになる、④かっこいい、など。小学生の今から姿勢を正すことを習慣化できれば、今後の人生で、計り知れないメリットがあるのではないでしょうか。

①集中力が高まる
②疲れにくくなる
③前向きになる
④かっこよくなる
姿勢を正す

■他人事ではなく自分事

子どもたちには、大切なことは、繰り返し伝えるようにしています。また、同じ話か、と感じてもらえるようになれば、ようやくその話が子どもたちにも浸透したことになります。ただ、話し言葉は何れ消えてしまう運命にありますので、なるべく文章に残すようにしています。文章をふり返れば、話の内容を思い出せるからです。さて、ここまですれば、子どもたちは話を理解して、行動を変えてくれるのでしょうか。行動が変わることもあれば、変わらないこともあります。何度も同じことを伝えているのにという思いはありますが、子どもたちに響くような伝え方ができていないのだと思います。

気になることは、他の学年の話をしているから、とか、自分はできているからと、自分には関係がないと思っている子どもがいることです。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉があります。自分の失敗からしか学ばないのは愚かなことであり、他人の失敗や先人の教訓から学ぶのが賢明である、という意味です。どんな話も、他人事として聞き流すのではなく、自分はどう考えて行動すればよいかと、自分事として聞けるようになれるとよいですね。

■運動会の練習風景

いよいよ、10月17日（土）の運動会本番の日が近づいてきました。子どもたちには、運動会本番で自分の実力を発揮してもらいたいと願います。本番は1回限りでやり直しはできません。その本番で実力を発揮するには、不安材料を払拭しておく必要があります。安心して競技や表現ができるように、今、一生懸命、練習をしています。

中学年の表現は、「マツケンサンバ」の曲を利用します。練習風景を見ると、ほぼ全員が振り付けを覚えていました。これからは、最終仕上げとして、自信を持って踊ること、美しく踊ること、楽しく踊ることを目指すとよいかと思います。このとき、自己流に踊るのではなく、リズムに乗って上手に踊る人の動きを参考にするのがよいでしょう。目を引く踊りをしている人は、指先まで意識して手を綺麗に伸ばしたり、強い視線を送ったり、姿勢よく踊ったり、笑顔いっぱいで踊っています。最終仕上げの参考になることがたくさんありますね。まねて学ぶ、絶好の機会です。